

スズメは、古来から人が生活する周りに生息し、多くの民話などにも登場するとともになじみ深い野鳥である。

### 【分類】

スズメ目 スズメ科 スズメ属 スズメ 学名 *Passer montanus* (山に住むスズメ) 英名 Tree Sparrow

(木に巣を造るスズメ) アイヌ語名 アヤメ チカプ(穀物を食べる鳥) 中国名 <sup>マニチュエ</sup>麻雀

(分類の経緯)日本鳥類目録では次のように変わってきた。

改訂3版(1942年)アトリ科

改訂4版(1958年)キンパラ科

改訂5版(1975年)ハタオリドリ科

改訂6版(2000年)ハタオリドリ科

改訂7版(2012年)スズメ科

### 【分布】

西はポルトガルから東は日本までユーラシア大陸の北緯 60 度を北限とした広い範囲に分布する。日本の分布は、北海道から沖縄県までどこでも見られる野鳥である。ただし生息するのは都市、農村、里山などの人の生活する付近に限られる。ヨーロッパにはイエスズメ(House Sparrow)がいて人の生活圏で生息し、スズメは学名や英名にあるように山に生息し、日本に生息する同一種とは思えない。

### 【形態】

全長約14cm から15cmで、体重18gから27gでシジュウカラくらいの大きさである。よく野鳥観察会などで大きさを比較する場合の「ものさし鳥」となる。雌雄同じ色で頭部は赤褐色、背中は褐色で縦に黒い縦筋があり、羽根に2本の白い帯がある。頬、首の後ろから胸にかけて白色である。耳毛と目先から喉にかけて黒い色をしている。くちばしは短くて太い円錐形で、小さな餌をついばみやすい構造になっている。黒色であるが幼鳥のときは淡い黄色である、ただし成鳥でも繁殖期の終わり頃に根元が黄色になる個体も出現することがある。雌雄は見分けるのが難しいが雌の方が少し小さいので雄雌が近くにいると見分けることができる。繁殖期になり抱卵が始まると雌は胸の毛をむしり産座に敷きつめて卵に直接体温を伝えやすくするため胸の毛がない方が雌である。

### 【生態】

人との結びつきが強く人と離れて暮らすことができない野鳥である、このような動物をギリシャ語の「・・・と共に」の syn と「人類」anthropos を合わせた synanthrope(シナントロプ)人類同調種と言います。スズメはその典型的な動物である。過疎化で人がいなくなった集落にはスズメも住まない。隣に愛鳥家が住まいの家があり餌台や巣箱などがいくつかあり利用して賑やかであったが、引っ越しを機に一羽もいなくなり巣箱も利用されることがなくなった。

平成12年に三宅島が噴火し、全島民が一時避難したとき、それまで高密度で生息していたスズメが姿を消したが、平成17年に避難が解除されて島民が帰島するとスズメも集落に帰ってきた。

地上では両足で飛び跳ねて(ホッピング)で歩く。飛ぶときは直線的であるが、急に方向変換もして飛ぶ能力は高い。

羽根や体を保護するため砂浴び、水浴び、雪浴び、煙浴び、アリ浴びなども報告されている。

集団で生活し、単独で生活することはない。ねぐら入りするときも大きな群れで行う。

渡りはせず留鳥とされるが、中には100km以上移動している個体も報告されている。新潟で足環をつけた5700個体のうち7個体が岡山県で、3個体が高知県で回収された報告がある。

食物連鎖の底辺にいる野鳥であるため、食物を探すために生活経験の未熟なものも豊富なものも群れで食物を探すことで未熟なものを助け、また多くの目で天敵を探すことで仲間を守っている。

#### 【個体数の変化】

2008年における調査によると約1800万羽と推定されている。この時期は個体数が減り1990年ころに比べ5分の1に減少したと言われたがその原因は良くわかっていない。しかし最近では近所でもよく見かけるようになり増加しているように感じる。

#### 【食性】

雑食性で、イネ科中心の植物の種子や昆虫を食べる。繁殖期には雛のために昆虫を好んで捕獲する。夏から秋にかけては稲に対する食害も起こし害鳥とされるが、稲や野菜などの害虫も補食するため益鳥とされている。

#### 【繁殖】

繁殖は、春から夏にかけて1から2回行われる。繁殖時はとても警戒心が強いが、やはり人の生活圏で繁殖を行う。天敵なども人を警戒して近づかないため雛などを天敵から守る効果があると推測される。産卵は毎日1個ずつ産み、産卵数は4から8個が報告されるが5個から6個が75%と多い。色は灰白色が基本色で紫褐色や灰色、黒褐色の斑がある。大きさは1.7cmから2.25cm×1.3cmから1.55cmである。抱卵日数は10日から14日でふ化する。その後14日から18日で巣立つ。

#### 【繁殖場所】

学名や英名と違い、人家の近くの雨樋と屋根の隙間や様々な場所を利用している。昔は板壁の間や換気扇のカバーの中などに巣を作っていたが、最近の民家は機密性が良く巣を作る場所がなく探すのに苦労するようで交通標識の横に伸びたパイプの穴などを利用している。

#### 【天敵】

都市部では、猫、カラスや小型の猛禽類(チョウゲンボウなど)で農村部では中型の猛禽類(ノスリ、オオタカ、ハヤブサ、フクロウ)、ヘビなどが天敵である。かつては人間も大きな天敵であった。

#### 【狩猟】

スズメは鳥獣保護法で狩猟鳥に指定されていて焼き鳥として食用にされてきた。現在は猟師の減少やスズメの個体数の減少などで捕獲される数が減っている。狩猟期間は11月15日から2月15日の間で銃や罠を使用しなければ誰でも捕獲できる。一時期は中国や韓国から輸入されていたが鳥インフルエンザ対策で現在は輸入

されていない。

### 【文化】

(俳句)

- \* 雀の子そこのけそこのけお馬が通る(一茶)
- \* 小雀や遠く遊ばぬ庭の隅(尾崎紅葉)

(民話等)

- \* 舌切り雀(したきりすずめ)—民話
- \* 腰折雀(こしおれすずめ)—説話
- \* 抜け雀(ぬけすずめ)—落語

(童謡)

- \* 雀(すずめ)—作詞:佐々木信綱 作曲:滝廉太郎
- \* 雀のお宿(すずめのおやど)—作詞:北原白秋 作曲:弘田龍太郎
- \* 雀の学校(すずめのがっこう)—作詞:清水かつら 作曲:弘田龍太郎
- \* 雀がサンバ(すずめがさんば)—作詞・作曲:かしわ哲

### 【慣用句】

- \* 雀の涙—「小さい」「ごくわずか」
- \* 雀百まで踊り忘れず—幼い頃からの習慣は変わらない
- \* 欣喜雀躍—嬉しさの余り両足を揃えて飛び跳ねる
- \* 雀の踊り足—文字が下手
- \* 雀の巣も構うに溜まる—量が少なくても積もり積もれば大きくなる
- \* 雀刺し—将棋の戦法(1点集中突破)

### 【名の付いた植物】

動物の名が付いた784種のうち32種類がスズメの名が附されていて3番目である。

スズメウリ スズメガヤ スズメオアワ スズメノエンドウ スズメノカタビラ スズメノケヤリ スズメノチャヒキ スズメノテッポウ スズメノヒエ スズメノヤリ オオスズメガヤ オオスズメノテッポウ コスズメノチャヒキ コスズメガヤなどイネ科の植物が多いのが注目される。

### 参考文献

インターネット百科事典(ウィキペディア)

スズメはなぜ人里が好きなのか(太田真也)